



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2019年 No.3
(通巻60号)
7月21日発行

長引いた梅雨もようやく終わりに近づき、まもなく夏真っ盛りとなります。

皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

今号は、5月、6月の活動報告と、8月以降のイベントのお知らせを中心にお届けいたします。

イベント報告

** あーすフェスタかながわ2019 **

<https://www.earthplaza.jp/earthfesta/index.html>

日時：2019年5月18日(土)、19日(日) 10:00~17:00

会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぷらざ」(横浜市栄区)

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会

世界各国の文化紹介や相互理解を目的としたフェスタに、今年も食販と物販で参加しました。

二日間とも予報を裏切る好天のもと、多くの来場者でにぎわいました。

食販は会場入口右側の「世界屋台村」にて。おなじみとなったヤーサ(レモン風味のチキンシチュー)とマーフェ(ピーナッツソースのビーフシチュー)のサンドイッチ、ベニエ(西アフリカのドーナツ)、アターヤ(セネガルのミントティー)を販売。両日とも完売しました。

物販は階段上の「ワールドバザール」にて。セネガルのお母さんたち手作りのケベサック(アフリカンプリントのバッグとポーチ)、アクセサリー、雑貨、絵本や書籍などを販売しました。

スタッフ参加の皆様、また、お客様としてご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

** 1 day for Africa 体験・発見 アフリカ大陸 **

日時：2019年6月16日(日) 13:00~18:00

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館3F

主催：神奈川県ユニセフ協会

アフリカ子どもの日に合わせて、アフリカの若者への理解を深めるイベントでした。

物販の他、アフリカの歌と楽器、ダンスの披露と体験、また、手作り楽器、ドローン、カンガの着付けのワークショップなど多彩なプログラムで、入場制限ができるほど、大勢の来場者でにぎわいました。

バオバブの会は、アフリカルチャーさんとご一緒のブースで、ケベサック、アクセサリー、雑貨、絵本や書籍などを販売しました。

高校生や大学生がディウフ会長を囲んで、熱心にアフリカの話聞くひとこまもありました。

イベント案内

**** 第8回GOSPEL FOR PEACE **** ちらしはこちら→www.gospel-sq.com/gp2019/flyer.pdf

日時：2019年8月4日（日）

15：30 開場 16：00 開会

場所：目黒パーシモンホール

主催：NGOゴスペル広場

入場料：前売り2500円 当日3000円 小学生以下の座席に座るお子様は前売り、当日とも500円
全席自由

*チケット予約専用：tiket@gospel-sq.com 自動返信でメールが送られます。

「ゴスペル×国際協力 楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を合言葉に、ゴスペルの輪を広げるNGOゴスペル広場が主催するチャリティコンサート。全国各地のゴスペルファミリーが一堂に会し、ハートフル&パワフルな演奏を繰り広げます。

バオバブの会は、ロビーの国際協力ブースにて、ケベサック、アクセサリー、アフリカ関連絵本、書籍などを販売します。

**** グローバルフェスタJAPAN 2019 **** www.gfjapan2019.jp/

日時：2019年9月28日（土）・29日（日）10：00～17：00

場所：お台場センタープロムナード（シンボルプロムナード公園内）

主催：グローバルフェスタJAPAN2019実行委員会

共催：外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）

入場無料 小雨決行

外務省が主催する日本最大の国際フェスタ。

バオバブの会は、今回、初の出展となり、ブースにて、活動紹介と、ケベサック、アクセサリー、アフリカ関連絵本、書籍などを販売します。また、29日（日）には、特設テントにて、ディウフ会長が活動報告を行います。

ブースの位置、活動報告の時間は、決まり次第、FBにてお知らせします。

大勢の皆様のご来場をお待ちしています。

**** 福引き2019 ****

福引き券発売開始 2019年10月1日

福引き抽選パーティー 2019年12月8日（日）の予定

*詳細は次号のニューズレターでお知らせいたします。

バオバブの会最後の福引きイベントとなりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

1か月後、何十人ものアフリカの国々の元首と、国際通貨基金や世界銀行などの代表が、第7回TICAD注1のために横浜にやってきます。彼らの目的は、アフリカの開発と発展のための方途を話し合うことにあるそうです。8月28日から30日までの3日間にわたってアフリカ開発支援の現状を精査し、3年前の第6回TICADでなされた経済援助の決定のうち、どれが果たされ、どれが果たされなかったのかを明らかにし、新たな支援も取り決めます。そして、3年後の第8回TICADで、同様の話し合いを繰り返すわけです。

この会議のために、何十ものアフリカ代表団が何十機もの飛行機を使って何千キロメートルも移動してきます。そして、何百人ものアフリカ人が日本に降り立ち、3日間かそれ以上、高級ホテルに滞在します。彼らの飲食代だけでも相当な金額になります。

私は、もしこのような大金を、お芝居としか思えないこの会議のかわりに、学校や病院の建設や設備のために使ったら注2、ずっとアフリカのために役立つのにとおもいます。

たとえTICADを開催する日本側の意識が、非常に立派なものであったとしても。そうです。私は、もしこの会議から具体的な成果が生まれることを真剣に願っている国があるとすれば、それは日本だけではないかと思っています。

私は、日本がアフリカの開発を願っていないという証拠は持っていませんし、この会議の実現を推進し、1993年以来開催してきたという意識の真剣さについても疑う理由はありません。しかし、そうだとした場合、国際通貨基金や世界銀行、また、これらの機関を管理する欧米の大国はアフリカの開発など願っていないということをわからないほど、日本が無邪気であるとは思えません。それなのに、日本は、なぜ、TICADを開催し続けるのでしょうか？どうしても答えが見つけれないのが、まさにこの問いなのです。

欧米の大国がアフリカの開発を願っていないどころか、阻もうとしているのは、多くの人の目に明らかな事実です。では、どうやってアフリカの開発を阻もうとするのでしょうか？それは次のようにまとめることができます。

欧米の諸大国は、遙か昔から、アフリカを始めとする、自然と人的資源が豊かな第3世界の人々からの搾取を続けてきました。つまり、彼らは第3世界に依存して生きてきたわけです。したがって、彼らは、自らの国民とその利益を守ろうとする指導者については、暗殺、クーデター、また不正な選挙によって追い落とします注3。その反対に、彼らと結託して、自らの国民を犠牲にする指導者を守ります。

こういった暗殺やクーデターについてもっとお知りになりたい方々のためには、たくさんの記録があり、ネット上で簡単に探すことができます。

しかし、ひとつも論証を出さずに告発だけをしたら、皆様を納得させることはできないでしょう。ですから、最近のものの中から一例だけ出そうと思います。それは、リビアの大統領だった、ムハンマル・カダフィの暗殺です。これについては、過去に一度、このコラムで扱っています(2016年第4号ニューズレター「ことわざで開く、アフリカ文化の窓 第19回 カダフィ暗殺の本当の理由」)。そして、今回は、素人である私自身の分析ではなく、国際政治の専門家による論証を紹介します。そのほうがより納得していただけると思うからです。それはMEDIAPARTというフランスのメディアによる情報機関で、非常に信頼性が高いとされる一方で、不正行為をはたらく政治家などからは恐れられているところです。

以下は、MEDIAPARTによる〈どうしてカダフィは暗殺されたのか〉の要約です。

どうしてカダフィは暗殺されたのか？ この答えは明らかです。カダフィは、自らがアラブ人、またアフリカ人であることを誇りに思っていました。そして、大多数のアフリカの元首のように、いかなる欧米の指導者にも迎合しようとしませんでした。また彼は、アフリカ合衆国創設とその初代大統領になることを夢見ていました。新たな植民地主義からアフリカを解放することを、断固決意していたのです。

そして、決意していただけではなく、実現に至る手段を持っていました。彼の計画は開始され、順調に進行し、達成まであと一歩というところまで来ていました。フランスを始めとする、アフリカに依存して生きている国々が、自分たちの利益を危険なまでに損なうこの人間を抹殺しなければならないと思ったのは、まさにそのときでした。「なんとしてもカダフィを抹殺しなければ！」。

この状況を理解するためには、次の問いに答えなければなりません。

まず、どうやったら、ひとつの国がひとつの大陸全体の運命を変えることができるのでしょうか？つまり、カダフィの計画と行動を支えるリビアの財力はどこから来ていたのでしょうか？そして、カダフィは、どうやって、欧米諸国によるアフリカ支配に終止符を打とうとしたのでしょうか？

1. リビアの財力

リビアは、今でこそ分裂と混迷の国ですが、かつては天国でした。アフリカでは唯一、欧米の強国が石油開発をコントロールできない国だったからです。その結果、他の石油を生産する国々が貧しく、電力も欠乏している一方で、リビアの人々は電力も水も教育も医療も無償で利用することができました。また、ガソリンはただも同然でした。そして、リビアは世界でもっとも借金の少ない国でした。たとえば、2013年、フランスは国内総生産額の85%、アメリカ合衆国は88.9%、日本はなんと225.8%が借金でした。それなのに、リビアのそれは3.3%でしかなかったのです。そのため、リビアは、ヨーロッパやアメリカのいたるところに不動産や金融資産を持っていました。アフリカはおろか、世界でもまれな、豊かな国だったのです。

2. カダフィの計画と行動

その1. 遠距離通信の分野

2006年まで、アフリカの電話とラジオとテレビのサービスは、世界で一番高いものでした。なぜなら、外国の通信衛星を使わなければならなかったからで、そのために、毎年、5億ドルを支払っていたからです。ところが、アフリカ独自の通信衛星を持つためには、4億ドルでよかったです。そこで、アフリカの国々は自分たちの通信衛星を持つことを決めました。そして、4億ドルを借りるために、国際通貨基金と世界銀行への交渉を14年間続けましたが、要求が通ることはありませんでした。4億ドルの借款に応じれば、毎年の5億ドルを失うことになるからでした。

2006年、我慢の限界に達したカダフィは、自力での通信衛星創設を決意しました。彼自身の資産から3億ドル、アフリカ開発銀行が5000ドル、西アフリカ開発銀行が2700ドルを拠出しました。残りはロシアと中国の技術協力で補い、2007年12月26日、遂に、アフリカで最初の通信衛星がうちあげられました。電話代は劇的に下がり、大陸中にラジオとテレビ網が広がりました。

その2. 政治経済計画

カダフィは、アフリカの国々を、アフリカ合衆国計画に参加させるのに成功しました。この連邦は、アフリカに、金融と通貨の主権を保証する、3つの機関創設によって完成されるはずでした。

①アフリカ中央銀行とそれに伴う強力な通貨制度注4

②アフリカ金融基金

長期にわたって、アフリカの経済的独立を目的とするもの。

③アフリカ投資銀行

経済活動を促進。特に、資金不足のために創意を発展させられない、多くのアフリカの若い起業家を支える。

このように、アフリカ解放の計画はすでに軌道に乗っていたので、アフリカを利用し、搾取し、アフリカに依存して生きている国々の経済にとって、大きな脅威となっていたのです。この計画を阻むただひとつの方法が、カダフィを抹殺することでした。カダフィは、生きている限り、戦い続けたのでしょうから。

このような事実があったので、私は、TICADに集う国々がアフリカの経済的独立を支援しようと思っているなどとはどうしても信じられないのです。彼らは自分たちのイメージを良くするためにやってくるのだとしか思えません。

しかし、なぜ、欧米諸国は、こうまでしてアフリカの発展を阻むのでしょうか？

私はセネガルのことわざを思い出します。<私は前に進めないのか？それなら、もう誰も前に進ませない！>また、<私はこの米を味わえない。それなら、誰も食べられないように、砂をかけてしまおう！>人間のエゴには、底知れないものがあります。

彼らはまた、経済的なものだけではなく、すべての罪に対する報復を恐れているのかもしれませんが。アフリカの人々、白人も黒人も、特に黒人に対して犯してきた、身体的な暴虐への復讐です。祖母がよく言っていました。<昼間、人に悪い行いをすると、夜はその報復を恐れて過ごすことになるだろう>と。

MEDIAPARTは次のように解説します。

欧米諸国は、いまだに保持している政治力と表面上の経済力にもかかわらず、奴隷制終焉の1880年代以降、衰退の一途を辿っている。その一方で、アフリカの国々は、ゆっくりだが確実に発展している。そして、その証拠として、主要な大国の借金をブラックアフリカ46か国のそれと比べています。つまり、アメリカ合衆国は14億ドル、フランス、イギリス、イタリアはそれぞれ2万億ドルに対し、ブラックアフリカ46か国は、合わせても4000億ドルにしかありません。

したがって、MEDIAPARTは結論します。歴史は、経済学者アダム・スミスの理論が正しいことを証明しつつあると。スミスは、アブラハム・リンカーンの奴隷制廃止を支持して、こう宣言しました。<奴隷制を行うすべての国の経済は、地獄に向かって下降を始めている。やがて他の国々が目覚めていくとき、それらの国々の状況は、もっと悲惨なものになるだろう。>

メディアの報道によってしかアフリカを知らない人々は、アフリカが大発展の途上にあることを理解できないことでしょう。なぜなら、大多数のメディアは、アフリカの悪い面だけを報道し、良い面は決して知らせないからです。したがって、アフリカが諸問題を解決し、長所が弱点を凌駕したとき、アフリカを悲観的に見ていた人々の驚きはさぞや大きいことでしょう。

今や、欧米諸国は、すべての国の発展が世界中のすべての人々のためになることを知るべきではないでしょうか。なぜなら、地球はすべての人々のものだからです。そこでは、誰も、物資や人々の往来を阻むことができません。アフリカや中南米からの移民の波をどうやってもコントロールできないことで明らかです。彼らはパスポートもヴィザもなく、より良い生活を求めて北の国へとやってきます。それはまったく自然なことなのです。

それにしても、TICADに集うアフリカの元首たちは、このお芝居に過ぎない3日間の中で、どんな役を演じるというのでしょうか？彼ら自身、なんの成果も生まれないことはわかっているでしょうに。

セネガルにはこんなことわざがあります。「薬を飲むとき、確かではないが、ひとつの希望がある。しかし自身をだますときは、すでに結果もわかっている」成果が出ないとわかっていることを、自分自身をだましてまでやることに、どんな意味があるのでしょうか。このような芝居はやめて、自分たちの国と人々のために身を捧げるべきだと思います。アフリカを発展させるのは、アフリカ人以外の誰でもないのですから。

注1：TICADは1993年以来、日本が開催する、Tokyo International Conference on African Development（アフリカ開発会議）の略語です。その目的は、アフリカの指導者と彼らの支援者が、開発のための話し合いをすることとされています。2013年までは5年ごとに日本で行われ、その後、3年ごとに、日本とアフリカで交互に開催されるようになりました。第6回TICADは、2016年に、ケニアのナイロビで行われました。

注2：セネガルにはコンクリートできていない（わらぶきの）教室が6000戸あります。したがって、少なくとも同じ数の、囲いのない学校があることになります。アフリカのほぼすべての国が同じような状況にあります。

注3：アフリカで多くの国が独立した1963年から今日まで、22人以上の大統領が殺害されました。彼らは旧宗主国、主にフランスの政策にとって邪魔になったからです。暗殺された大統領の名前は、インターネットで見つけることができるでしょう。トーゴのシルヴァニユス、コンゴのパトリス・ルムンバ、ブルキナファソのトーマス、ガーナのクワメ・ンクルマ等々です。

注4：アフリカの14か国がFcfaを通貨として使っています。これは国際市場で保証されるために、フランスによって作られた通貨です。フランスは、Fcfaを使う国々に対して、彼らが保有する通貨の50%をフランス銀行に預けるよう義務付けています。この制度は、結果として、フランスに完全に有利、アフリカの国々には不利になります。ひとつの例をあげましょう。もし日本がセネガルにお金を貸すとすると、セネガルはその金額の50%しか受け取ることができません。残りの50%はフランス銀行に行き、彼らの思うままに使われることになります。この制度をやめるか、ここから脱会して独自の通貨を持つとしたアフリカの指導者は、すべて、暗殺されるか、罷免、投獄されています。

ボランティアスタッフ募集中！

グローバル2019出展にあたり、当日のボランティアスタッフを募集します。

短時間のご参加で結構です。ご協力いただける方は、HP内の「お問い合わせはこちら」よりメールをくださるか、お近くの運営委員までお知らせください。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993 - 35 TEL&FAX 045 - 373 - 0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先: ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

★HP : <http://the-baobab.org>

★メールアドレス info.the.baobab.assoc@gmail.com

ホームページ内の「お問い合わせはこちら」からご連絡いただけます。

★Face Bookページ名 : バオバブの会The Baobab Association

URL : <http://www.facebook.com/the.baobab.association>